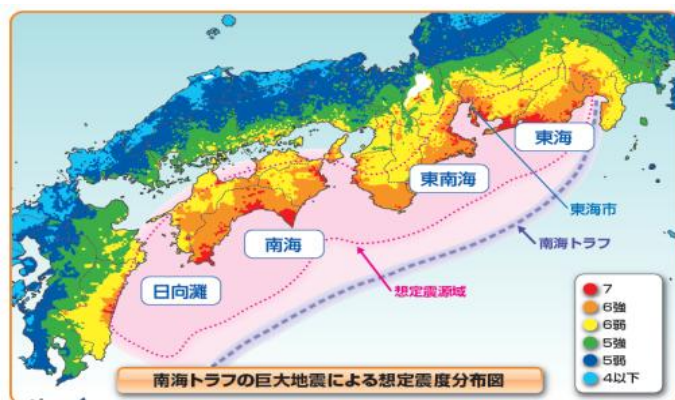


明けましておめでとうございます。
会員皆様の健やかな1年を願っています。

さて、日本列島は海と陸の4プレートが複雑に衝突しているところに位置しています。これほど多くのプレートがせめぎ合う場所は世界で他にありません。このため、日本では地震や火山活動が活発になっています。30年以内に80%程度の確率で発生するとされ、駿河湾から日向灘にかけてのプレート境界を震源域とする南海トラフ巨大地震（M9クラス）に対する国の新たな被害想定が公表されています。



南海トラフ地震の震度分布

全国の被害想定では最悪の場合、死者は29万8000人、全壊・焼失する建物は235万棟にのぼるとしています。

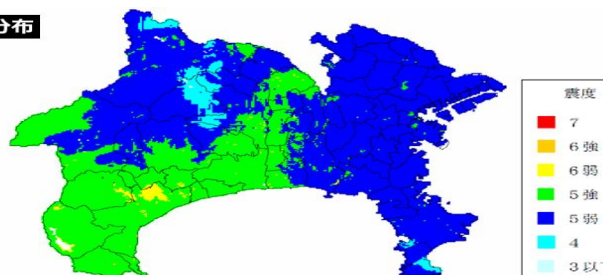
南海トラフ巨大地震 全国の被害想定

	今回（2025年）	前回（2012年・2013年）
死者数	29万8000人 ↓8%	32万3000人
建物倒壊	7万3000人	8万2000人
津波	21万5000人	23万人
地震火災	9000人	1万人
全壊・焼失棟数	235万棟 ↓2%	238万6000棟
避難者数	1230万人 ↑29%	950万人
経済被害	270兆3000億円 ↑26%	214兆2000億円

想定データ：内閣府 最悪ケースを記載
※経済被害は資産等の被害と経済活動への影響の合計 ※死者の内訳は主な要因を記載

全国の被害想定

震度分布



神奈川県の震度分布

神奈川県内の被害想定

最大震度	6弱
死者数（人）	3,100
避難者数（人）	83,000
全壊・焼失（棟数）	3,800
断水人口（上水道）	130,000
停電（軒数）	69,000
津波（高さ・到達時間）	鎌倉（10m・30分） 逗子（9m・35分） 藤沢（7m・32分）

深刻な被災地は南海トラフに近い東海地方以西ですが、最大震度6弱が予想される神奈川県も上図のように被害が大きく、最悪のケースでは3千人以上の犠牲が見込まれています。ただ、死者は津波が主因で、相模湾岸には発震後30分、横浜、川崎には1時間後に津波が到達する想定です。この対策として日ごろからの避難訓練と迅速な避難行動で被害を減らせるとしています。

地震の発生に備えよう



自らの命、大切な人の命を守るために、今から準備しておきましょう

南海トラフ大地震が起きれば、太平洋岸を中心に広範囲の地域にかけて、前例のない被害が想定され、深刻な物資不足やインフラ被害、通信障害が予想されています。

地震に備えるためには、「自助・共助・公助」の精神が重要ですが、まず「自分（家族）の命は自分（家庭）で守る」という意識のもとに、日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、「自分（家族）で防災に取り組む」必要があります。

南海トラフ大地震は100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震で、現在の地震学では地震の発生時期や場所・規模を高い確率で予測する科学的に確立した手法はありません。

予知ができない前提で、被害軽減の「備え」の対策を !!